

社団法人廣東同郷会敬老慶祝大会開かる

【横浜発】社団法人廣東同郷会（陸煥鑫会長）は、九月十七日正午、横浜中華街聘珍樓本店大宴会場で恒例の敬老慶祝大会を催した。

同店三・四階吹き抜けのパーティフロアを会場に、長老会員九十九名を含む会員とその家族ら総勢三三〇名が一堂に会し団欒した。

朱銘江副会長の司会で開会し、陸煥鑫会長は冒頭のあいさつで、同会会員の約三割が既に古稀を過ぎた長老会員で占められていることが紹介され、敬老の日にあたり先輩会員がますます健康であるようにとの祝福の言葉が述べられた。また、陸会長はあいさつのなかで、自らの経験に根ざした健康法を披歴し、胚芽とゴマを摂取すると健康増進に役立つという話には、多くの参加者が興味深く聞き入った。

会長のあいさつに続き広東要明鶴同郷会夏東開名誉会長の音頭で乾杯し、祝宴は始まった。

参加者はこの日の為に特別に用意されたふるさと広東の名菜に舌鼓を打った。

宴も中盤に差し掛かる頃、陸会長を先頭に同会幹部が全ての宴卓を「敬酒」（＝祝杯を挙げあいさつ）して廻った。また、同日参加した七十歳以上の長老会員には同会から長寿を願い祝意を表す「利是」（紅包＝金一封）が贈呈された。折りしも、中国に伝統的な祭日である中秋節を二週後に控え、この日のデザートには蛋黄月餅が供された。

午後3時過ぎ、符順和副会長の閉会の辞で盛会裏に敬老慶祝大会はお開きとなった。

「社団法人廣東同郷会」では今春より正副会長らによる研究チームを立ち上げ、専門コンサルタントの助言を得ながら、「一般社団法人廣東同郷会」への移行を目指して来た。今般その準備が整い、申請書類は九月十五日に所管省庁へ提出された。

審査が順調に進めば二〇一三年四月以降に移行手続きが完了し、「一般社団法人廣東同郷会」が誕生する。